

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

M

8

9

10

11

12

13

14

15

B

17

18

19

繪本在原草紙

卷之六

特
 へ遠13
 964
 6止

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

1

2

3

4

5

6

7

8

9

20

1

2

3

千方之間者般若五郎鬼面六郎兩個藤乃若の藤乃若の藤乃若の
出立く東あがり初ふさる風情して初あふくつ松林
もふふ来り休息せし又折る其もこの初あふくつ松林
なるま業子の清供の終きすいけはのほくくそそ
殿のま後せんそ古くはたうくそ東海道とつても驛
乃おひ茶店者賣たむといふものもたうそは藤乃若の
西へたりとも茶店してか初く用事する初干飯を茶
まあしそはを以て豆飯くしそそとたりまく女中も
くらうつそくまは干飯をとりま出く中飯と調ふ
彼二個もかこりしそそ山竹筒やうの物より酒を
くら飲く下級たふもくらはを振舞初く初あは

下部のまひ一登地酒は飲も酒をくおくのろきお
酒の飲もふ足箱六りふやうそそけ人てそそかの市
鷹くそそ種より初清方そ何乃清用さうそそあは
清下向まやらんと初あふ中間もそそそそそそ清
主人とつそふはそそ中初業平そそそそ日平一の初後
そそそ後藤系東へ初初とらふそそ清下向はるそそと
若あふ鬼面六がそそそそそそそそ高位の清方六
そそそそそり清後終く初初は愛人うそそそそ下
そそそそそも初初種子の若もたうそそは遠回美茶より
帰くそそふかまそそふ初初業平の初後あそ一首
きうせたまそそかそそ初初はそそそそそそそそ藤乃若の

ちる沙天魚志うらば作まうまじし我うあふ
 葉ゆきせし出あり二個の考は新ぬりてさう
 柔じもたうもて子純物なとあてふ枝の山候り
 ちるば地とれりの對し清縁分りふべきやうたう
 二つも旅路の山にともさうて首ねさうへきる只
 方途雨を純物あはさう上げしやゆふ兩個て
 けち地といはれし一ふきさうかき清縁雨をとき
 ぬきさうぬし一まうし中をさうさう上を雨おと色い
 つきやうたう一只下画の野うらまはゆへりら
 けしと血なすし一けしをけしハツ樹けりふしとさう
 鳴れさうかきけさうとらふ五ふ字乃かふと句純

上りゆき藤治乃有さうまう二首は藤一まうしは
 ねらうしそらあぞ思ねおすうまハ雑歌のむすし
 上りのたり只の考の頭をさう出さうしはるあは
 兩個のの中あまはささば上のけの清方まゆふまうしハ
 上結つ日純物なをさうなすし中もさう是は雑歌あんでさ
 然さうき業平はさうしはもさうたう人ハ何所の雑歌なり
 ともさうみかた人させまあは但し雑歌なすしはさうし
 一の術考もさうハ業平はさうしはさうしはさうしはさうし
 一さうしはさうしはさうしはさうしはさうしはさうしは
 上もさうしはさうしはさうしはさうしはさうしはさうしは
 うるははれいさうしはさうしはさうしはさうしはさうしは

物いへくもあべく是くせく吉歌をどと吹さるるめく
かきりてこの五文字句地よは於向して旅申の述懐を
一首の歌よりははるおくららにま

かきりてこの五文字句地よは於向して旅申の述懐を
一首の歌よりははるおくららにま
かきりてこの五文字句地よは於向して旅申の述懐を
一首の歌よりははるおくららにま
かきりてこの五文字句地よは於向して旅申の述懐を
一首の歌よりははるおくららにま

かけり

今ハ橋本古路ハ杜若の傳もははれぬりつうくは
不吉道すて世供鍾若さくしあけあまそ幅もひり
業平塚しつうあももはり里地ハ池裡附よりうぶかり
あまのゆもは中田付しつうあももはり里地ハ池裡附よりうぶかり
ゆしし七いりてかろりつてあまのゆもはり里地ハ池裡附よりうぶかり
其傳も池の形くは芝系くは古くは杜若の傳もははれぬりつうくは
たるよりあまのゆもは中田付しつうあももはり里地ハ池裡附よりうぶかり
せし路しつうあまのゆもは中田付しつうあももはり里地ハ池裡附よりうぶかり
平の傳も池の形くは芝系くは古くは杜若の傳もははれぬりつうくは
さきも古くは芝系くは古くは杜若の傳もははれぬりつうくは

石原車馬書

五

満乃葉面と云ふ事いふごとく花や星移る事ありや
 ともさきまろ路も定まらぬ地をた名改すはく磨き
 不るかじかくも個の織は業年と討ふ人しまの
 う程なくま中將ころよそ何の心も付たまは次亦
 更たまふを二個は仕舞しとぬき付まき切らぬ
 侍候の人をゆやくい女中達なきは白母やおぼらき
 頼頼きくもあもり終ひのうもあふ終てあの式を十
 う切らしてあ個等々く市馬をくかけらりて
 變はたふあれ思持これをもろよりそ力も車も
 てんぼり曲者もあまははじと二個は向ひて
 あ個は女しゆりいもは終らばあふらりてあまは

更たまふもいふまゝもさくらも鬼面六も
 できふもあも助るもあも対も
 どのくは遊りてり思持何事も遊も討
 蘇刀かいせ遊りを井留難はるよ
 めを遊にかつては只一人の若さ
 へきすは後え抱まじと再び人教を
 さし趣きまふまふ又あ織は放
 遊方を遊るを千方又若さり
 しかるも難題の和歌を印中
 心志は遊まらりても耐を看
 くれ知る民両を



千手堂の谷峠



千手堂の谷峠
兵を休めて
文を讀む

業平のつもりやせよ入色せよ... 誰を以て... 誰の若き... 業平は... 一やうは... せらふ... 時も急ぎ... ぬべ... 平心ふ... 誰は... あり... あり

千方角田川卧兵
忍摺潜水底復仇

既よ入... 待... 先んず... べ... 暗を... 乃切... 一... 切... せ... せ



井筒姫十太夫
都をめぐり
お招きかた
お招きの
お招き
お招き
お招き

水を川のすくすく栓をぬいた水はあはれしせよ流しよふま
ぢりしあせんよの工たるまは外くのふはて般も道辺よま
むししけら艘をがまを西岸つつあがせ業平の奉る
と待文其身ハ小袖共々坊旅寄れどく水身と
やゆししかたししちちり水海き森の原ふかくましし被来
がけあままらししあまの忽ち千方水はよ入りく
水界をわんししし水跡をたれんぞ水角をよて
うち居りしがししあま井田姫ふはら角田門しし業
平のよ虫合まししせんよの契約しし水跡をいれぎて
お経路をうらちすぎ武蔵國しし出く下総の境なる
角田川乃西の岸又まはたす

按てまありし角田川の古跡説多し今に記すありし
矢たたりや梅吾塚も名よしし後人けりあはれ
他ししししん一説は業平の奥好しし向あはれ武
蔵より下路ししを越くべしよ下路へ越たす本不審
その上文級日記よ下つさ乃中武蔵乃境ししし
ふししししし又むししししさかぬしの中ししわしし
川しししし五甲持のつしししししししししししし
けしししししし説しししししししししししししし
ふししししししししししししししししししししし
だもわししししししししししししししししししし
村ししししししししししししししししししししし



正徳五年



本居草子卷五

千方水一勞まゝく漂人をねりし組体せ忍指千方の首をよつと
 かき切りし取を口にくく入血刃祝水よみ流るる吉臣の類稀なる儼を
 働者若舌を巻んを感せさるふかきけ里かふ折も業平の入り川
 を舟とせませ船を押切けけ西よりいけ有原を又たきまふり
 忍指が子柄の程を流し感し流るる流し舟も業平の業平金剛
 もるく流し舟をよみ込めて更計畧を白杖にせ候も元乃舟不
 立歸り舟不流し十餘人の若くも討てかま小織もこへりしと
 逃出を逃けけしそ生授與抄征伐乃門出の血祭寂光よと
 首赤流し隅田川原小竹流ししてこれをおけ勝岡作の舟よち
 系りたこの岸へ押渡し陸奥さして趣きまふ其の程のよみし
 目出なよりけけ風情なり

信夫指在原草紙卷五大尾

曲亭馬琴翁
高井蘭山翁

唐本百回本新譯水滸画傳全九十冊出來

初編

十冊

自卷之壹

至卷之十

- 張天師祈了く瘟病と穰ふ
- 洪太尉誤了く妖魔と走らる
- 王教頭延安府ふ走る
- 九紋龍史家村と闘を
- 史大郎夜華陰縣ふ走る
- 魯提轄拳く鎮関西と打
- 趙員外重く文殊院と修す
- 魯智深大く五臺山を闘を
- 小霸王酔て鎗金帳ふ入る
- 花和尚大く桃花村と闘す
- 九紋龍赤松林く剪徑を
- 魯智深瓦罐寺く火焼
- 花和尚倒く垂楊柳と抜
- 豹子頭誤く白虎堂ふ入
- 林教頭刺れて滄州道配る
- 花和尚大く野猪林と闘を
- 柴進が門く天下の客と招く
- 林冲が棒洪教頭と打
- 林教頭風雪山神廟
- 陸虞候草料場と火焼

貳編

十冊

自卷之十

至卷之三

○朱貴水亭に號箭と施す ○林冲雪夜梁山に上り
 ○梁山泊に林冲落草に ○汴京城に揚志叙と賣
 ○青面獸北京に武と闘ふ ○急先鋒東郭に功と争ふ
 ○赤髮鬼酔て靈官殿に卧 ○晁天王義と東溪村に認む
 ○吳學究三阮と説て撞籌せむ ○公孫勝七星小應と義と聚
 ○揚志金銀擔を押送す ○吳用生辰綱を智と以取
 ○魯智深二龍山に單打 ○青面獸宝珠寺に雙奪
 ○宋公明私に晁天王と放 ○美髯公智と以挿翅虎と穩守
 ○林冲水寨に大と火を併れ ○晁蓋梁山に小と泊と奪ふ
 ○梁山泊の義士晁蓋と尊しぬ ○鄆城縣の月夜に劉唐と走らむ
 ○關婆酔て唐牛兒と打 ○宋江怒て關婆情と殺す
 ○關婆大に鄆城縣と闘む ○朱仝義とめりて宋公明と叙す

三編

十冊

自卷之三

至卷之三

○横海郡に柴進客と留む ○景陽岡に武松虎と打
 ○其下 ○王婆賄と貪て風情と説
 ○王婆西門慶に計唆む ○潘婦武大郎と菜雉と
 ○鄆哥大に授官廳と開す ○武松闘て西門慶と殺す
 ○母夜叉孟州道に人肉と賣 ○武都頭十字坡に張青と過
 ○武松威安平寨に鎮る ○施恩義とめりて快活林に奪ふ
 ○施恩重て孟州道に霸る ○武松醉て蔣門神と打
 ○都監張蒙方武松と陥む ○武松大に飛雲浦に闘す
 ○張都監血と鴛鴦樓に濺 ○武行者夜蜈蚣嶺に走る
 ○武行者酔て孔亮と打 ○錦毛虎義とめりて宋江と釋す
 ○宋江夜小盤山に看 ○花榮大に清風寨に闘す

四編

十冊

自卷之五
至卷之四

- 鎮三山大は青州道に鬧す
- 霹靂火夜瓦礫場を走
- 石將軍村店を書と寄
- 小季廣梁山を雁と射
- 梁山泊小季用戴宗と拳
- 揭陽嶺小宋江李俊と逢
- 沒遮欄及時雨と追趕
- 船火兒夜潯陽江に鬧す
- 及時雨神行大保小會す
- 黑旋風浪裡白跳と闘ふ
- 潯陽樓ありて宋江反詩と吟む
- 梁山泊戴宗は假信と傳へむ
- 其下
- 梁山泊の好漢法場と却り
- 白龍廟は英雄小義小聚
- 宋江智とて無為軍と取
- 張頌黃文炳と活捉
- 還道村ありて二卷の天書と受
- 宋公明九天玄女と遇ふ
- 假李逵の剪徑單人と却す
- 黑旋風沂嶺ありて四虎と殺す
- 錦豹子小徑ありて戴宗と逢
- 病關索長街ありて石秀小遇
- 揚雄醉て潘巧雲と罵

五編

十冊

- 石秀智とて裴如海と殺
- 病關索大は翠屏山に鬧す
- 擗命山火とて祝家店を燒
- 撲天鵬生死の書と雙修は
- 宋公明一は祝家莊と打
- 一文青單王矮虎と捉
- 宋公明兩祝家莊と打
- 解珍解寶双て獄と越
- 孫立孫新大は牢と却り
- 吳学究連環の計と双用
- 宋公明三は祝家莊と打
- 挿翅虎拳とて白秀英と打
- 美髯公誤て小衛内と失ふ
- 李逵殷天錫と打死は
- 柴進高唐州は失陷す
- 戴宗智とて公孫勝と取
- 李逵父行とて羅真人を劈
- 入雲龍法と闘ありて高廉と破
- 黑旋風穴と探柴進と救ふ
- 高太尉大は三路の兵と興は
- 呼延灼連環馬と擺布す
- 吳用時遷とて甲と盗む
- 湯隆徐寧と賺して山の上へ

自卷之五
至卷之五

○徐寧教て鈎鎌鎗と使ひ
○宋江大に連環馬と破る
○三山義と聚て青州と打
○衆虎心と同じて水泊を取す
○吳用金鈴吊掛と賺す
○宋江西岳華山と鬧す
○公孫勝芒碭山と魔と降し
○晁天王曾頭市と驚かす
○晁天王曾頭市と驚かす

六編

○吳用智とめて玉麒麟と賺す
○張順夜金沙灘と鬧す
○冷箭と放て燕青王と救ふ
○法場と切て石秀樓と飛
○宋江が兵北京城と歩
○関勝議して梁山泊と取んと
○呼延灼夜月関勝と賺す
○宋公明雪天に索超と擒ふ
○托塔天王夢中に聖と頭と
○浪裏白旗水上と寛と報す
○時遷火とめて翠雲樓と焼
○吳用とめて大名府と取
○宋江馬歩三軍と賞す
○関勝水火二將と降す
○宋公明夜曾頭市と歩
○盧俊義史文恭と活捉

十冊

自卷之五
至卷之六

○東平府を誤て九文龍と陷
○宋公明義とめて双鎗將と識
○没羽箭石と飛せて英雄と打
○宋公明糧と棄て壯士と擒
○忠義堂の石碑天文と受
○梁山泊の英雄座次と排す
○柴進花の簪と禁院ふ入
○李逵元夜ふ東京と鬧し
○黒旋風喬鬼と捉
○梁山泊雙て頭と獻す
○夔青知日とめて擎天柱と撲
○李逵壽張を喬と擒
○活關羅船と倒めて御酒と偷む
○黒旋風詔と捉て欽差と罵
○吳加亮四斗五方の旗と布
○宋公明九宮八卦の陣と排
○梁山泊十面の埋伏
○宋公明再童貫に贏
○十節度使議して梁山泊と取んと
○宋公明一高太尉と敗
○劉唐火と放て戦船と焼
○宋公明兩高太尉と敗
○張順鑿て海鯁船と漏し
○宋公明三高太尉と敗

七編

十冊

自卷之七
至卷之七十

- 夔青月夜道君小遇
- 梁山泊小金と分て大買市寸
- 宋公明詔と奉て大遼と破る
- 宋公明の兵蕪州城と歩
- 宋公明夜益津関と度
- 宋公明大獨鹿山小戦ふ
- 宋公明大幽州小戦ふ
- 顔統軍陳小混天の象と列
- 宋公明夢小玄女の法と授る
- 宿太尉恩と頒て詔と降す
- 双林鎮小燕青故に遇
- 盧俊義黑夜小敵と賺を
- 戴宗計と定て蕭讓と賺
- 宋公明夥と全かく招安と受
- 陳橋驛と決と滴て小卒と斬
- 盧俊義大玉田縣小戦ふ
- 吳学究智とめて文安縣と取
- 盧俊義が兵青石峪小陷
- 呼延灼力番將と擒めぬ
- 宋公明陳と破て功と成
- 五臺山と宋江泰禪に
- 宋公明の兵黄河と渡る
- 軍威と振小李廣の神箭

八編
十冊

自卷之十一
至卷之八十

- 蓋郡と打智多星の密籌
- 宋江兵と兩路に分
- 李逵が暴衆人と陷
- 喬道清の術宋江と破
- 入雲龍の兵百谷嶺と圍
- 瓊英處女先鋒と傲
- 花和尚縁纏井と解脱に
- 張清瓊英双功と建
- 墳地と謀て陰險逆と産す
- 王慶姦小因て官司小嘆
- 張管營妻の弟小因て身と喪ふ
- 喬道清風と同一賊寇と焼
- 李逵夢小天地と鬧す
- 関勝義とめて二將と降に
- 宋公明の忠后土と感む
- 幻魔君の術五龍山と窟
- 陳瑾諫官安撫と陞
- 張清瓊英小配し且鄆梨と導
- 混江龍水と大原城と灌
- 陳瑾宋江同し捷と奏に
- 春陽と踏て妖艶奸と生む
- 龔端龔正配軍王慶と師に
- 房山寨と双と舊強人と併
- 書生談笑しと強敵と退く

九編

十冊

- 宋江大に紀山軍小勝
- 王慶江で度て捉らる
- 雙林渡ふて燕青雁と射る
- 宋江知是りの潤州城と取
- 宋公明大に毗陵郡と戦ふ
- 宋公明蘓州を城小大會す
- 湧金門を張順神と歸を
- 宋江智とりの寧海軍と取
- 宋江大に烏龍嶺小戦ふ
- 盧俊義大に昱嶺關小戦ふ
- 魯智深浙江小坐化と
- 宋公明の神蓼兒洼小聚
- 小旋風砲と藏と賊と撃
- 宋江寇と剿功と成
- 張順夜金山寺小伏す
- 盧俊義兵と宣州道小分
- 混江龍太湖を小く義と結ぶ
- 寧海軍を宋江孝と掃を
- 張順が魂方天定と捉ふ
- 盧俊義兵と歙州道小分
- 睦州城小箭鄧元覺と射る
- 宋公明智とりの清溪洞と取
- 宋公明錦と着て郷小回
- 徽宗帝夢小梁山泊小遊

自卷之上
至卷之九十
大尾

東都鳥飾戴十画

花鳥画傳

初篇
二篇 全二冊

一勇齋國若画

一勇画譜

全一冊

北齋爲一老人画

繪手本水滸画傳

全一冊

柳川前重信画

繪手本水滸画傳

全二冊

此書は鳥畫草本に異河をりて
 緝しは画と毒しむ人難免ら油と需
 どり画はとらつて重むの画手年あり
 國若多年此工夫と暇り新奇物葉の意
 えりて方小すりて画きたる香通
 画譜の扱と雲泥の居り中て世小
 うもの画本れり

此画の画を人の手にて水滸傳一百八人乃
 者依と丹精細筆を去に画手本等書あり

此画の柳川先生此等あり水滸傳
 一百八人乃英雄と景ありはおのくとは
 附くを蒙れ越画と好む人の便あり

萬飾戴斗画

英雄圖會

全一冊

萬奇國芳画

三國英勇画傳

全一冊

忠臣銘々画傳

全一冊

萬奇英泉画

畫本錦之囊

萬飾戴斗画

全一冊

萬職圖考

初篇二篇 三篇 四篇 五篇 全五冊

大阪書林

河内屋茂兵衛梓

東都川關先生著

早引人物故事

全部二冊

同 誹林泊凉大人著

近代世事談

全部五冊 合卷三冊

後篇近刊

一名 萬金産業袋

町家高賣仕法大成

全部六冊 合卷三冊

萬寶

此書は本朝英雄良將名士の肖像を日
飾丈人細子に画工をせしめてこれに小傳を
あつた吳魏蜀三國よその名を以て英傑といふ
りしにこのくく小傳を附して事蹟の詳を
守世に名をおし一書冊が筆力と揮ひ其の
今水画傳よりもさうさうなればなるに
此書は赤穂の義士四十七個成忠の實情を奉て
國芳大人肖像画と考れば求むれば後た
い後林の金瓶梅詞話の眼展物物物物
塔宮殿の彫物根根根根根根根根根根
佛陶器の彫物根根根根根根根根根根
御堂上は除物形根根根根根根根根根根
景後山水の根根根根根根根根根根根根
とていひが家たの益ある後手本なり

此書は事蹟の昔より近世まで名將事蹟
はる侍將連放排備の達人風流非優不素
いさすので由りなると人々の集めたる
時代成はせしむる小傳のふはさかた
安く記し故人の搜索とるは後小傳なる
い書は余山殿より味兵服食菓草本花菓器
万物近世素船草履流書画侍飲連非香菓
提系及い芝居木の起原人傷難事草十行
故実ふ何の順より初よりいこと事い
たまに札右ふを博識の道徑とする可
此書は諸職の秘要眞傳ふつと事
あつたに因り何れか、あつたに因り
國乃を成りしはす又ホとく
諸工商の重宝、いしり此の
それより後編ふとく

年五

淡洲樓馬大人評
関卷百笑 全二冊

此書の正馬馬大人の集る処奇
妙なる今昔此物に
作してを若男女た
かふふなはけ
消去夜の果腹と
以上もをれ一書
見れを不笑を権
嚴格の人々
る者一決して匠
致るれ虚あるを

浪華書房

心辨橋通博勞町角

松亭金水著
大平樂皇國性質 全二冊

此書を儒者と佛者の説
あるを流と悦ば
風俗の變化ありし
鮮やかなるは
後或は
悦豪富貴士と
や
筆して
此の小説は

河内屋茂兵衛藏板

書 林

京都寺町通佛光寺	河内屋藤四郎
江戸日本橋通壹丁目	須原屋茂兵衛
同 貳丁目	山城屋佐兵衛
同 貳丁目	須原屋新兵衛
同 南傳馬町壹丁目	山城屋政吉
同 下谷御成道	英文藏
同 大傳馬町貳丁目	丁子屋平兵衛
同 芝神明前	岡田屋嘉七
同	和泉屋吉兵衛
大阪心齋橋筋本町角	河内屋藤兵衛
大阪心齋橋筋博勞町角	河内屋茂兵衛板

